

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2011

課題番号：19530120

研究課題名（和文）協同組合型の非営利組織と市民参加との相互作用のメカニズム

研究課題名（英文）The interaction mechanism of Consumers' Cooperative NPO and Citizen Participation

研究代表者

羅 一慶 (RA ILKYUNG)

中京大学・総合政策学部・准教授

研究者番号：50410626

研究代表者の専門分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：協同組合型の非営利組織、ソーシャル・キャピタル、集合行為のジレンマ、市民参加、政治参加、合理的選択、選択的便益、参加型制度

1. 研究計画の概要

本研究は、合理的選択論の観点から、参加者自らが出資し、経営し、働くような「協同組合型の NPO」と市民参加との相互作用のメカニズムの解明を試みるものである。本研究では、分析対象として神奈川県的生活クラブ生活クラブ生協の事例を取り上げる。

本研究の目的は、合理的選択理論のアプローチを基本としつつ、進化心理学や認知社会心理学の知見を積極的に取り入れながら、生活クラブ運動グループの事例を検討することで、①個人のイニシアティブによる社会的サービス（集合財）の提供可能性に影響を与える制度的要因は何か、②また、それらの要因の中で各個人の政治活動への参加に影響を与えるメカニズムとして働いているものとは何か、を理論的かつ実証的に検討することである。

本研究のもう一つの目的は、日常的な相互作用からなる社会ネットワークとそこに埋め込まれている一連の資源が NPO の形成や発展に及ぼすメカニズムを、合理的選択論の観点から、解明することである。つまり、本研究は、NPO の形成や発展過程における集合行為のジレンマ問題（ただ乗りの問題や保証問題）の克服に、日常的な社会関係やそこに埋め込まれている一連の資源がどのような影響を与えているのか、という問題を理論的かつ実証的に明らかにすることに焦点を当てている。

平成 19 年度は、①協同組合型の NPO と関連する基礎的データを収集するとともに、②パネル調査としての第 1 回目の「社会政治意

識と市民参加」に関するアンケート調査とヒアリング調査を行う。

アンケート調査においては、①組織内外のネットワークや互惠性の規範や相互信頼が形成されるメカニズムを明らかにし、②生協加入のあり方の変容がソーシャル・キャピタルの質やソーシャル・キャピタルの形成メカニズムの変化にどのような影響を及ぼしていたのか、という問題に焦点を当てることとする。

平成 20 年度は、前回のアンケート調査を補足するヒアリング調査を行い、平成 21 年度は、（パネル調査としての）第 2 回目のアンケート調査を実施する。この調査によって、生協加入のあり方が変わり、それに従って組合員参加の制度も変わったことがソーシャル・キャピタルの質や蓄積メカニズムの変化にどのような影響を及ぼしていたのか時系列的に分析することが可能となるであろう。平成 22 年度は、これまでのパネル調査の結果とヒアリング調査を総合的に分析し、その分析結果を論文や報告書としてまとめることを目指す。

2. 研究の進捗状況

(1) 平成 19 年度末には、（パネル調査としての）第 1 回目のアンケート調査を行い、平成 21 年度 3 月には第 2 回目のパネル調査を行うことができた。

(2) 平成 19 年に科学研究費補助金を頂く前から研究してきた成果を中心に、2008 年 5 月に生活クラブ運動グループに関する調査結果をまとめた本を出版した。また、韓国の

学術雑誌に論文を掲載することもできた。さらに、慶應義塾大学 21COE-CCC 国際シンポジウムでも生活クラブ運動グループについての報告を行った。

(3) 平成 20 年度には、第 1 回目のアンケート調査の分析結果を用いて、2008 年 6 月の日本 NPO 学会の研究会で 2 回の報告を行い、有意義なコメントをいただいた。また、2009 年 7 月の日本公共選択学会でも上記のアンケート調査結果を用いた報告を行った。さらに、これまでの報告を踏まえた上で中京大学総合政策学部のジャーナルにも 2010 年 3 月に論文を掲載し、その論文を調査対象団体のリーダー達にも配布した。

(3) 2010 年 3 月にはパネル調査としての第 2 回目のアンケート調査を行い、現在、その調査結果を分析しつつある。2010 年の秋ごろには、これまでのアンケート調査 (2 回) とヒアリング調査の結果を用いて、生活クラブ生協の関係者達とのワークショップを計画している。このワークショップの結果を踏まえた上で、総合的な分析結果をまとめ、ジャーナルなどに掲載することを計画している。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

個人情報の問題と関連してパネル調査を行うことが難しい局面もあったものの、生活クラブ生協理事会の同意を無事に得ることができ、パネル調査としての第 2 回目のアンケート調査を行うことができた。今後は、追加のヒアリング調査とともに、上記の 2 回にかけたアンケート調査を総合的に分析しまとめる作業のみが残っている。

ただ、予算上の問題により、協同組合型の非営利組織であり、社会的企業でもある、【ワーカーズ・コレクティブ】についてのアンケート調査を行うことができなかった。

4. 今後の研究の推進方策

(1) パネル調査の分析結果を用いて、学会報告や論文掲載などを行った上で、本の執筆を計画している。

(2) その後の研究の推進方策として、2 年後、生活クラブ生協について、(パネル調査としての) 第 3 回目のアンケート調査を行う計画を立てている。また、予算上の問題のために行うことができなかった【ワーカーズ・コレクティブ】に関するパネル調査を進めるために、他の研究費の申請をも行い、【協同組合型の非営利組織】や【メンバーシップ型の社会的企業】についての研究を引き続き行いたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

- ① 羅一慶 「生活クラブ生協における組合員活動とソーシャル・キャピタル」中京大学総合政策学部『総合政策論叢』第 1 巻、2010 年 3 月、17-43 頁 (査読無)。
- ② 羅一慶 「地域政党の制度的基盤と集合行為のジレンマ—神奈川県的生活クラブ運動グループに関する事例を中心に—」韓国漢陽大学第 3 セクター研究所『市民社会と NGO』第 5 巻、105-145 頁 (査読有、韓国語) 2007 年 12 月。

〔学会発表〕(計 6 件)

- ① RA, ILKYUNG . “Citizen’s Participation in Japanese Civil Society.” International Symposium on Designing Governance for Civil Society、2010 年 3 月 6 日、慶應義塾大学。
- ② 羅一慶 「生活クラブ生協における市民参加のメカニズム」2009 年度日本公共選択学会、2009 年 7 月 5 日、中央大学。
- ③ 羅一慶 「日本のローカルガバナンスの現状と課題」第 11 回釜山学研究センター国際学術シンポジウム『韓日の地域革新と地域政策の動向と課題』、2008 年 11 月 10 日、新羅大学 (韓国)
- ④ 羅一慶 「信頼、信頼性、そして市民活動における協力類型」日本 NPO 学会 NPO 研究フォーラム、2008 年 6 月 22 日、大阪大学。
- ⑤ 羅一慶 「相互信頼システムとしての協同組合型の NPO」日本 NPO 学会 NPO 研究フォーラム、2008 年 6 月 22 日、大阪大学。
- ⑥ 羅一慶 「NPO と市民参加との相互作用のメカニズム」慶應義塾大学 21COE-CCC 国際シンポジウム、2007 年 11 月 25 日、慶應義塾大学。

〔図書〕(計 2 件)

- ① RA, ILKYUNG ・ Kobayashi, Yoshiaki ・ Lee, SeungJong ed., *Government and Participation in Japanese and Korean Civil Society*』木鐸社、2010 年 (近刊：共著)
- ② 羅一慶 『日本の市民社会における NPO と市民参加』慶應義塾大学出版会、2008 年、310 頁。